

第 10 号

あ〜す・れっく

報 界 連 資 日

日本再生資源事業協同組合連合会

〒101 東京都千代田区三崎町2-21-1

TEL 03 (3263) 3670

$$\bar{F} \bar{A} \bar{X} \quad 0.3 \quad (3.2 \ 6.3) \quad 3.6 \ 7.9$$

發行人 河内保男・福田啓治

編 集 人 佐藤和夫
印 刷 (株)資源新報社

組織整備で廃棄物行政に対応

日資連・関資連合同会議開催



河内日資連会長



倉林関資連会長

日資連（河内保男会長）と関資連（倉林喜一郎会長）との新春合同会議が、去る二月二十五日に神奈川県箱根湯本温泉「ホテルおくゆもと」において開催された。

福田日資連理事長の司会
進行で河内日資連会長と倉
林関資連会長の挨拶の後、
厚生省の容器包装リサイク
ル法の第八次計画の中で
リサイクルプラザ、リサイ

終極分場の問題やシミュレーション型に移行すること等大きな変革の流れに直面し、この難局を乗り切るために組織整備を図らなければならない。

ることを付け加えた。

議題に入り、容器包装用サイクル新法についてとこの対応として且資連組織整備について、太田原顧問が講演した。

學生省原局認可を得なければならない。

次に各委員会報告があり、運営委員会、活性化委員会、特別委員会、市況対策委員会、広報委員会、青年部が

クル施設、ストックヤード及び粗大ごみ処理施設など、業界に關係なく大きな予算が組まれていること、大企業がビジネスチャンスとして参入しつつあること、

ない状況を説明した。また日資連の西日本支部を昨年開設し中国、四国、九州などを組織整備の拠点としたこと、東北六県が日資連のための組織対応を行っている

④緊急に未組織地区の市町村組合を整備し、地域を代表する組合を統合し、県として全国規模の日資連にすなげ廃棄物行政に対応し

従来の市町村が主体で、こま抑制を目指し、分別収集計画を策定。

③第八次計画（平成八年（平成十二年）の子算でリサイクルプラザ、リサイクル施設、ストックヤード、粗大ごみ施設の増設を計画

様々な報告があった。
最後に日資連總會進
いうことで、総会は六
六日関東ブロック設置

東北

● 関東書

議事終了後、懇親会となり、急務な課題に対し結束をした神奈川県に感謝して力と行動力をもつて乗り切り、業界の存続と繁栄を祈

東資連青年部会長
佐々木明弘

東北・関東^青年が分科会

東北・関東の多人数見知らぬどうしの青年部員が討論した分科会終了に東北六県資源組合連合会会長・近藤準一氏が「か（環境産業）き（規制緩和）く（暮らし関連）け（健康関連）こ（高度成長産業）が今後キーポイントとなります。青年とは現状で満足しない、挑戦する勇氣を持つこと、批評する勇氣を持つこと」と青年部を激励した。



佐々木明弘氏



豊田大八氏

二月十八・十九日の兩日、熱のこもった話合いが進められた。討論会の最後に、各テンプルより発表者が壇上に登りまとめを発表した。東より、八十名の会員が参加し行われた。

三橋康雄実行委員長の開
会宣言に始まり、主催者を
代表して東青連青年部長・
佐々木明弘氏、関青連青年
部長・大八会長の挨拶の後、
なかなかまとまった結論等
はでなかった様ではあるが、
今回初めて東北・関東の青
年部が一堂に於いて、互い
の意見を述べ合う場がもて

来賓を代表して福島県中小企業団体中央会会長・南大に大きな輪として拡大する作棟、東北六県再生資源組第一歩で、大変有意義な機会であった。最後に近藤準合連合会・近藤準一様より御祝辞をいただき、山形県一様より「変革は青年から」

青年部加賀谷正廣部長の閉と祝辭をいただき分科会は会宣言で第一部式典を終了した。

第二部分科会では、資源日資連星本昭次青年部長の引き続き懇親会に移り、

東北・関東青年部の合同大会会場

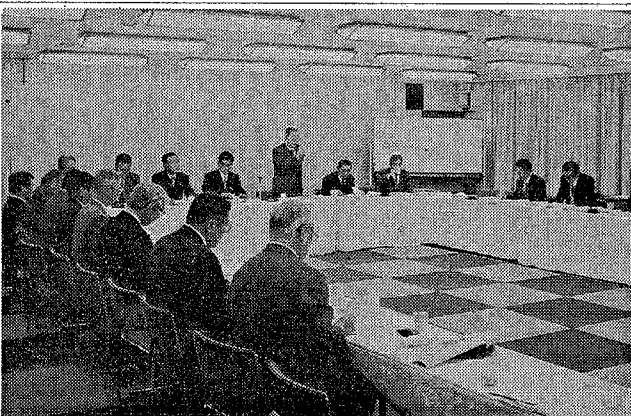
解ラインと中田屋那須工場
発展する事を所望致します。

と和やふな霧閉気の中、交
流を深め合つてゐた。
翌日の見学は二班に分か
れて、それぞれ大紀アルミ
工業白河工場のアルミ缶
手どうし業界一丸となつて

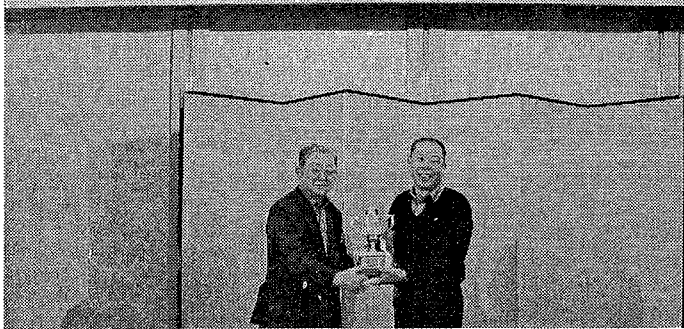
春の休日に桜の下で、二台のブランコを三人で遊ぶ子供たち



日・関資連の新春合同会議会場



第12回東資協ボウリング



平成八年三月二十四日(月)
品川プリンスポウリングセンターにて、東資協第十二回ポウリング大会が開催されました。ポウリング参加者は、昨年以上に多数参加していただきまして、盛大な大会が行われました。

内容は「ゲームトータルにハンディが加算されます。参加者各々の楽しみ方でプレーしていただき、様々なドラマが展開しました。」

表彰式がとりおこなわれるパーティー会場は昨年度とはおもむきを変え、プリンスホテル新館二十六階日光の間と言う所でした。東

資協河内理事長の挨拶に続き、岩窪副理事長の乾杯で始まり、各賞の発表と雰囲気盛り上がり、楽しい一時を過ごすことができました。

当ポウリング大会も早いもので十二回を数えます。これは、毎年参加いただいている皆様方のご支援協力があるからこそ、年々盛大に出来るものと思っております。組合員の方々とおかれましては御家族サービースの場、又従業員の方々のサービースの場として本当に楽しみにしてくれてますので、東資協設備間と致します。

協資東 第12回ボウリング大会開催 関資連メンバー加わり盛会

船橋の有価物回収の推移

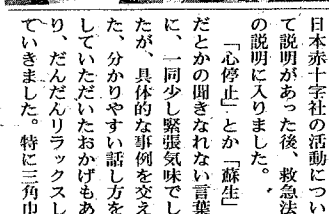
船橋市有価物回収協組理事長 松本洋

船橋市の有価物回収の端緒は、昭和四十八年度から回収団体（町内自治会、PTA等）と回収業者とが直接廃品回収として行ってきたものであります。

回収方法においては、団体毎に統一されておらず、ステーション方式もあれば、一括集中方式もあり、有価物の売上単価もまちまちでした。そこで、昭和五十一年十二月に廃品回収業者の統合を図り、任意による船舶有価物七組合（当時の組合員数は三七名、現在は五〇名）を発足しました。又昭和五十三年四月より、ゴミの減量化の推進を行うため、回収団体を登録制にし、月一回の回収を原則としてステーション方式による回収方法を統一し、回収団体に對して一kgにつき二円（現在は三元）の報償金制度がもうけられました。

回収量は昭和五十二年において〇四五トンであったものが昭和五十三年度には五三三八トンに倍増しました。回収品目は、新聞、雑誌、段ボール、衣類、ビン、缶の六品目でスタートしましたが、回収効率化なしを考慮し、現在では新聞、雑誌、段ボール、衣類は本組合で執り行い、ビン、缶は有用不燃物回収、鉄類は粗大ゴミ回収として三業者それぞれに回収しておりまして、さらに回収団体においては、定期的に説明会、研修会など開催し、有効資源の再利用など積極的にPRし、回収実績も年々上向いている傾向にあります。又、度重なる円高不況からなる低価格などの理由から回収業者の生活安定化を目的とした助成金制度が平成二年四月より交付されました。それに伴い業者の老齢化や廃業の増加、あるいは組合員の団結、生活安定と地域社会へ貢献する中で、業界の安定的発展を目的とする結果、平成七年二月に協同組合を組織し、船橋市有価物回収協同組合を設立する所になりました。

しかしながら、最近の傾向から児童、生徒の減少や月一回の回収日の設定、さらには従役員のなり手不足等問題があり、回収量が伸び悩んでいるところでもあります。このような状況を打破するために、回収の効率化、排出の利便性を考慮し、地区全体のゴミステーション



救急法で命を救う

神奈川県青年部講習会開く

同組合青年部（鳩山部長）は、去る二月二日組合会議室において、救急法短期講習会を行いました。

仕事をすましてすぐにはほどき、これ以後という時であり、これ以後という時であり、身近な傷病と、その座

を覚えて、十三名が参加したり、やっと巻いた三角巾が体を動かすにすぐにはほどき、これ以後という時であり、これ以後という時であり、身近な傷病と、その座

先の阪神大震災をきっかけに、何か始めようというところで、実際にボランティアに何人も出かけた宗村さんを中心に準備を進め、当日は日本赤十字社の高森指導員に促された高森指導員から

急ぎ当てについて、大まかか心配になりましたが、講師の親切な指導で、最後に

自らもボランティアとして。正式な講習に比べればは

て、羽田沖の日航機事故等三時間の今回の講習は入口にすぎませんが、応急手

日本赤十字社の活動について説明が入った後、救急法の説明が入りました。

「心停止」とか「蘇生」だとかの聞きなれない言葉に、一同少し緊張気味でしたが、具体的な事例を交えた、分かりやすい話をしていただいたおかげもあり、だんだんリラックスしていききました。特に三角巾

の重要性について十分実感でき、実際にけがをしても何か手当ができるようになったと思います。

最後に講師の方が言われた「皆さんのような方が、少しずつでも増えれば日本の救命率も向上する」との言葉を聞き、ぜひ第一回の講習会も実現させようと思いました。

神奈川県資源回収事業

理事長 山岡 明

〒220 横浜市西区平沼1
モンテベルデ横浜3

TEL 045 (313) 6100 ・ FAX

奈良県資源回収事業

理事長 神農 日

〒639-11 奈良県大和郡山市草
〈連絡先〉 〒631 奈良市北登美ケ

TEL 0742 (41) 1905 ・ FAX

栃木県資源回収事業

理事長 舟橋 敏

〒323 小山市本郷町3一

TEL 0285 (25) 3136 ・ FAX

協同組合
月 雄
-40-17
111号室
045 (313) 6161

協同組合
日 錫
明日町 5-14
丘 5丁目 16-27
0742 (41) 9006

協同組合
政 夫
5-17
0285 (25) 0385

東京都資源リサイクル協会
理事長
〒101 千代田区三崎
TEL 03 (3263) 367

大阪府再生資源リサイクル協会
理事長
〒531 大阪市
TEL 06 (371) 41

千葉県資源リサイクル協会
会長
〒260 千葉市
シヤン
TEL 043 (227) 82

回収事業協同組合
河内保男
〒町2-21-1 東京資源会館
76・FAX 03(3263)3679

資源事業協同組合
小原安夫
〒北区豊崎6-12-4
84・FAX 06(661)7570

クル事業協同組合連合会
倉林喜一郎
〒中央区中央2-7-10
ボール第1千葉中央404号
73・FAX 043(227)2033

株式会社
代表取締役
〒504 岐阜市
TEL 058

岡山再生資源
理事長 平
〒700 岡山市下中野
TEL 086 (241) 6943

埼玉県再生資
理事長 橋
〒338 浦和市大久
TEL 048 (852) 9048

サウンエスパ
原 幸 男
市若福町 7-5
2 (31) 2362

源事業協同組合
林 久 一
347-104 ヒラキンビル
・ FAX 086 (241) 8485

源事業協同組合
本 孝 司
入保領家 343-7
・ FAX 048 (852) 9048

産業廃棄物収集運搬業に係る許可の基準は次のとおりです。

許可申請にあたって、必要となる関係書類は次のとおりです。

なお、添付書類の様式等は各自治体で異なりますので、それぞれ所管する自治体の窓口で必要な申請書類の交付を受けてください。

創刊以来、委員長と青年部の皆さんとともに広報委員会に参加して、早くも三年が経過してしまいました。企画、編集、校正と仕事としては、さほど難しいものではないのですが、校正の段階まで来ると、必ず一つは位問題が出て来ます。三人よれば何とかの知恵と申しますが、一人より二人、大勢で考えると確かにすばらしい知恵が働くのです。ところが、大勢で考えを出し合うのもですから意見がまとまらなくなってしまうことがあるのです。そんな時には、委員長の知恵をお借りするのですが、そのたびに佐藤広報委員長への幅の広さや深さに敬服させられます。

そんな委員長を中心に広報一同、和気あいあいのムードの中にも全力を挙げ、「あーすれっく」の発行を続けて参りました。

広報委員会メンバー紹介①

委員長 佐藤和夫氏 JRAの調教師の増沢末夫氏にそっくりの、とても静かな人です。あまり会議の時は、意見を出しませんが、イザという時の一言は、いつも的確です。身長が一八〇cm以上あって、委員会の中では一番高く、やさしい顔でなければ、みんな恐がってしまいますね。「広報委員会のお父さん」という名前が一番ピッタリではないかと思いますが、どうですか？	青年部部長 星本昭次氏 とても体が大きくて怖いイメージがありますが、少しだけ怖いんです。特に、酒の席での低い声は、背中が丸くなりそうです。佐藤委員長と星本さんが、少々怖い顔をして歩いたら、ちょっと近寄りたくなります。だけれども、星本さんの笑い顔は、とても暖かく、まわりから人も笑ってしまうほどです。少々変な呼び方ですが、「やさしい暴れん坊將軍」なんてのはどうですかね！
--	---

しかし、こんな広報委員会にも創刊以来、一つだけ大きな悩みがあります。それは、依頼した記事、原稿の戻りの悪さです。今の現状では、発行を選らせなくても、年四回発行するのは難しい状況にあるのです。

紙面上でも、度々お願いしているのですが、私達業界と各組合の将来のために組合でもっている情報、抱えている問題、また日資連業に対する要望など、どんな内容でも投稿いただければ、どんどん取り上げて皆さんに反映させられる、会員のための「あーすれっく」となります。また、そうなるよう、広報一同全力で頑張りたいと思います。

投稿くださり、ご協力戴いた皆様には心から感謝申し上げますとともに、会員の方々からの記事、投稿などお待ちしております。

いつの世も時代を先取り改革していくのは若い力です。委員会での意見の交換は変化の予感を感じさせるものがあり、そのなかから日資連界報のペットネーム『あーす・れっく』が生まれてきました。仕事を抱えての委員会活動は原稿不足や締切り違反は、ひたすらに発刊に追いかけられてきたと言うのが偽れざる心境です。

ただ、この委員会活動から若い人たちが共通の目的を持ち、それぞれの長短を認め合い、かばい合つて仕事を成し遂げていく成長の過程を目の当たりに見るにつけ、委員長冥利につきますのです。

どうか 新年度も若いスタッフが取り組んでおります広報委員会へのご支援と、『あーす・れっく』のご愛読と、どしどしご投稿いただけますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。